

真鶴

## 自治会だより

皆、皆が住みよい町に

## 防災を考える

## 能登半島の激甚災害で思うこと

自治会連合会会長 朝倉 隆

能登半島地震でお亡くなりになられた方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災をされました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。そして1月27日の義援金の募金活動では、皆様より心温まるご支援ご協力を頂戴しましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて日本は地震大国であり、世界で発生しているマグニチュード6以上の地震の約2割が、日本周辺で発生していると言われております。そして近い将来においても、南海トラフ沿いの大地震や首都直下型地震の発生が懸念されています。能登半島地震では建物倒壊の様子や津波が押し寄せる様子が、車のドライブレコーダーやスマホでリアルに映し出されていました。

何時やってくるかわからない災害に対して私たちはどのように対処したらよいでしょうか。気象予報などで予測ができるものは、躊躇なく早めに避難することが大事です。突然起こる地震対策は、寝室などの家具を固定するなどの安全対策と耐震補強が必要だと感じました。

避難所生活では、プライバシー・トイレ環境・衛生・物資の不足などの問題、そして高齢者、女性や子どもへの対応も大切です。普段から地域コミュニティを構築し、人と人が繋がっているまちづくり、何でも言い合える関係性などが重要です。昨年からの講演会での「住民間の繋がりが深い地域ほど災害に強い」（福島大学の天野和彦教授）や「女性・障がい者・子どもに対して寄り添い支援や安心して話をしたり意見が出せる状況を作っていくことで、各々の人が主体性を持って活躍できる」（減災と男女共同参画研修推進センターの浅野幸子共同代表）の言葉が印象的でした。

## 男女共同参画講演会

（避難生活で健康被害や関連死を出さないために）高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から）に参画して

「まずはできる範囲で、自宅内での安全対策と備蓄をすること」「様々な避難のかたちを想定して、日頃からネットワーク化をはかること」「平時から地域で、年齢・経験・性別などに関係なく、意見を言いあえる関係性を築いておくことが大切」今回の講演を受け、これらのお話が印象に残っています。

年明け早々に発生した能登半島地震。同じく半島の町、真鶴も他人事ではないと感じ、講演に申し込みました。まずは平時に行う防災訓練や避難所開設訓練に、要配慮者を含めた多様な立場の方が参画しやすい仕掛けをすること、そこで様々な意見を反映する仕組みづくりをしておくことが、災害発生時の避難生活の困難や、健康被害を防ぐことができるのだということ学びました。今後実施される訓練には、これまで以上に、周囲にも参加を呼び掛けていきたいと思っています。

講演内でご紹介いただいた「東京備蓄ナビ」、携帯やパソコンを使い、ぜひ皆さんにも活用いただきたいです。備えておくべき食料や日用品3日分が、家で暮らしている人数や年齢、ペットの存在等を踏まえてリストアップされます。わが家ではまず、断水時に使える携帯トイレを購入しました。

(子育て世代/M)

# 新町長に聞きました

## 自治会と町役場の 役割分担をどうするか？

真鶴町町長 小林 伸行

2021年3月、町は「第2期真鶴町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略」というものを発表しています。人口が2020年の6,721人から、2040年には4,324人に、2065年には2,030人にまで減るという予測であるため、人口を維持するために様々な手を打つという計画です。私は無茶だと思います。どんなに頑張っても、真鶴町の人口は減るでしょう。

人口が減ることが問題なのではない。減ってしまうと町民が幸せでなくなる恐れがある。それが問題なのです。むしろ、減ることを前提に町民がどうすれば幸せでいられるかを考えることが、現実逃避ではない責任感ある態度だと考えます。

人口が1/3になってしまえば、町役場も公共施設も今のままでは残せません。イベントや行事も減るでしょう。おそらく、自治会の統廃合も出てくるでしょうし、事業も見直す必要があるはずです。そのとき、何を自助で各世帯が行うのか？ 何を共助で自治会が行うのか？ 何を公助で町が行うのか？ 当然ながら、今とは違った姿になるはずです。

真鶴町は、他の市町村における自治会程度の規模の人口しかいません。これは卑下しているのではなく、むしろ災害対策においては強みになると思います。ある意味、他のまちだったら自治会が担っている機能も町が担えるのではないかと。逆に自治会は住民組織でなければできないことに焦点を合わせられるのではないかと。そんな風にも思います。もはや町も無い袖は振れないので、形式的な話は捨てて、町民の命と財産をまもるためにホンネで話をしていきましょう。

### 取材を終えて

2月7日、広報部員4名で小林町長を訪ねインタビューを実施させて頂きました。防災・自治会・町役場の事など、我々部員が聞きたかった事を約90分にわたって取材させて頂きました。

- ☆町長の椅子の座り心地は？の問いに、席を暖める暇がないと。確かに、#町長日記（インターネット、フェイスブックで閲覧可能）をみると、町内だけでなく町外まで足を延ばし真鶴を売り込んでいる。
- ☆久しぶりに役場に入った。今までと何か違う。積まれていた書類などが片付いている。スッキリ。職員の顔つき、対応も変わってきた。それにもまして、やる気がみなぎっているとまでいかないが、適度な緊張感を持って仕事をしていると感じた。
- ☆選挙公約、喫緊の課題については、公約以前に、各課が当たり前のことをやることから始めている。公共交通については、真鶴地区、岩地区を回るルートを考えている。早急に実現してほしいです。
- ☆防災計画、避難所設営・運営など、課題については、自治会と詰めていきたい。
- ☆町長の発信力、行動力に負けないよう自治会も動いていきたい。

どんど焼きの竹切りや 自治会の行事にも率先して参加している姿を見ていましたが、今日は多方面にわたる真鶴町の問題をざっくばらんにインタビュー形式で意見交換をさせていただきました。真鶴町民になったばかりというのに防災対策・水道の老朽化や高い水道代金・地域の活性化・役場の役割など、問題を的確に把握されていることでよく勉強されていて頼もしさを感じました。また、できることはできる、できないことはこういう代替案を考えているなど、腑に落ちるものがありました。特に当たり前のことを当たり前にする役場にしたいと言われたことが印象に残りました。

広報真鶴12月号で、町長任期の前半を「地固めの2年」、後半を「攻めの2年」と位置付けていると書かれていましたが、色々お話させて頂いてそのニュアンスはなんとなく掴めました。まずは役場として出来ない事を肅々と片づけ、やるべき事を確実にやり抜くのが今は重要のようでした。また新たな取り組みに関しては、店や企業等の誘致による活性化などの他力本願ではなく、現在の町の状況・特徴・環境にあわせた身の丈にあった取り組みを考えていくとの事。住民としてはやって欲しい事は山積みですが、着実に前に進んで頂きたいと思いました。

真鶴の状況を把握されており、各質問に対し町民からの意見として聞き入れてくれ、また町長の立場の意見も聞いて良いコミュニケーションがとれたと感じた。この話のなかで役場中間層が退職して抜けたダメージは大きかったのかなと感じた。今後職員を増員してもあらたに教育することから始めると更に現職職員の負担増になると感じたが、現状問題は山積みですので、一つ一つ解決してくれると期待しています。

## 成人学級・社会見学 (横浜市資源リサイクル施設) に参加して

城北自治会 重 栖 和 子

地球温暖化対策の一つとしてごみの減量が言われています。紙は新聞紙、段ボール、紙パックと分類しますが、ペットボトルはフタと包装をとる。ビンは透明と青、茶色の瓶に分ける。

生ごみも無駄な食材を買わない。生ごみの80〜90パーセントは水分といわれますので「水を切って出す」私たちが少し気を付けてひと手間かけるとごみの減量につながります。

昨夏のような猛暑や、海外の森林火災、雨が降らなくなると地割れした湖などというこ

とが身近になっていきます。

連合会では成人学級で横浜資源リサイクル施設「リサイクルポート山の内」の社会見学をしてきました。主に紙と古布の分別作業施設です。座学も楽しくて3R「リデュース、リユース、リサイクル」をしっかりと学んだと思います。とくにリデュース（廃棄物の発生抑制）が一番大切。古布はまだ着られる服を洗って布のごみの日に出す。体型の近い東アジア圏に輸出すると、国際的な資源リサイクルになるなどちょっと気を付けてゴミ出しすると活用できるなど勉強になりました。



# 新春を飾る伝統行事

## 【道祖神】

### 【どんど焼き】

どんど焼きは、小正月の伝統行事の一つです。準備として、大量の竹や笹を切り出して岩海岸に運び竹柱「どんど」を中心に祠を作り、この祠に納める作業を行います。また、各家庭のお正月飾りを持ち寄って不燃物を外したものを祠に納める作業も行います。

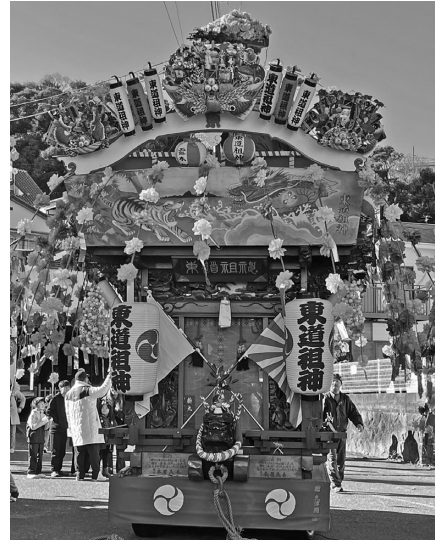
以前は、岩地区の子供会が主体で実施していましたが少子化により、参加人数も減り現在は、岩海岸どんど焼き実行委員会、真鶴町自治会連合会、真鶴町消防団、いわっ子供会の協力で実施している。

今年は1月13日にやぐらに点火して、一年の健康と成長を願った。



村や集落の入り口、坂の橋のたもとなどに祀られた神様のこと。「塞の神（サイノカミ）」とも呼ばれる。真鶴では、「道祖神まつり」が毎年開催されるほど大切にしている。古い村境に置かれ、疫病退散のほか縁結び、豊漁祈願、そして村人の特別な願い事を叶えてくれる神様といわれている。

今年は1月14日道祖神祭が開催され、東西丸山地区の道祖神を起点に「屋台」と呼ばれる山車を太鼓の音に合わせ子ども中心に綱を引き3台が並んで貴船神社まで一緒に歩いた。



道祖神を知ったのは、幼少期親戚の人に連れられ祭りを見に行ったとき役員の方にお前も綱を引っ張れと言われ参加した覚えがあります。

この頃の遊びは、家の近くに広場があり近所の友達同士でボールはゴムボール、グローブなしでベースは線を引き三角ベースで野球をしたりサッカーをして遊んでいました。

小学校の通学では西の道祖神、中学生の通学では、児童館前道祖神がありいつも花が飾られて、掃除をしている人が挨拶をしてくれたことが記憶に残っています。真鶴には、11か所28体の道祖神があり一体ごとに表情が違うので歩いてめぐってみたいかがですか。

小学校の通学では西の道祖神、中学生の通学では、児童館前道祖神がありいつも花が飾られて、掃除をしている人が挨拶をしてくれたことが記憶に残っています。真鶴には、11か所28体の道祖神があり一体ごとに表情が違うので歩いてめぐってみたいかがですか。

(広報部 高橋 靖彦)

## 編集後記

昨年は関東大震災（大正12年）から100年を経過した節目の年でありました。大震災以降、昭和、平成、令和と時代は変遷し、この間マグニチュード7級の大規模地震の多発と復興を繰り返して来ました。

振り返れば1995年（平成7年）阪神・淡路大震災2011年（平成23年）東日本大震災は記憶に新しく脳裏に焼き付いている。そして、本年元日に発生した能登半島地震で悲劇はまたしても繰り返され、大規模地震は短期間のうちに繰り返して発生するんだと言っ既成事実が証明された。

これらの既成事実を真摯に受け止め、もう悠長なことは言っておられず、「今かもしれない、いや明日かも、分かりませんね。」何とか生きながらえても長期化する避難所生活から健康を害し、持病を悪化させ懸念される災害関連死。

本日より冒頭で朝倉会長が避難所生活での問題点を提起していますが、これらについて詳細に考察し、具体的且つ立体的な避難行動計画を作成し、担当者の役割分担を決めて実践的な訓練を繰り返す行い、発生直後の的確な初動措置に続けて行くことが必要である。

今災害が起きたら、まずどのような行動を起こしますか？

次に自治会連合会の広報部員が多忙中の小林伸行新町長に対して突撃インタビューを敢行しました。町長は就任わずかでありながら防災対策や水道問題などの確に把握され、期待は膨らんだようでした。

また真鶴町の将来像について、問題となっていない人口減少を憂慮され、避けて通れる問題ではないとして、減少したらその中で町民の幸せを考えて行くことと申し述べています。頼もしいですね。今後の施策についても自治会と町と緊密な連携をとり歩んで行くことが必要であると思えました。

(広報部 土屋 勝幸)

## 自治会連合会ホームページ

(どんど焼き・道祖神の記事は自治会だより95号にも記載されています。興味ある方はご覧ください)

